

平成30年度 学校教育に関する重点取組

- 1 確かな学力の定着と健やかな体づくりの実現をめざします。
- 2 体験的・実践的な活動を通して、豊かな心の育成に取り組めます。
- 3 地域全体で子どもを守り育てていくため、家庭・地域・学校の連携を推進します。
- 4 子どもが安全かつ安心して学ぶことのできる教育環境を整備・充実します。

(後期まちづくり基本計画における【学校教育】施策の展開方向より)

尼崎市教育委員会

重点取組項目（平成30年度）

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む

(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する

- 学校園の課題を把握・分析し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善に取り組むことで、幼児児童生徒（以下「児童等」という。）の自発性や能力を引き出し、基礎的な知識・技能とそれらを活用して課題を解決する思考力等の能力を育成する。
- 家庭との連携を深め、予習や復習を含め、自分で計画を立てて学習する習慣を育成する。
- 児童等の発達や学びの段階を踏まえた系統的・連続的な指導や支援を行い、縦のつながりを重視した校種間の連携を推進し、児童等の確かな学力の定着を図る。

〔関連項目： アクティブ・ラーニング、学力向上アクションプラン、ICTの活用、校種間連携〕

(2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する

- 特別な支援を要する児童等の多様な教育的ニーズを把握し、自立や社会参加に向け、適切な指導及び必要な教育的支援を行い、主体的に生きようとする力を育成する。
- 共生社会に向けたインクルーシブ教育を推進するため、交流及び共同学習を積極的に取り入れ、全ての児童等が多様性を尊重し、共に学ぼうとする態度を育成する。
- 一人ひとりの持てる力を高めるため、全教職員の共通理解のもと組織的に、早期からの一貫した支援を行う。

〔関連項目： 個別の教育支援計画、自立活動、合理的配慮、特別支援学校のセンター的役割〕

(3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する

- 食育の全体計画のもと、「食」に関する正しい知識と、望ましい食生活の選択力を身につける実践力の育成を図る。
- 家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」運動等を通して望ましい生活習慣の育成を図る。

〔関連項目： 食物アレルギー対応マニュアル、生活習慣病予防、給食等試食会〕

(4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る

- 計画的・継続的な体育・スポーツ活動の指導を通して、児童等が運動する楽しさや喜びを味わうことにより、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力及び健康保持のための実践力、体力・運動能力を育成する。

〔関連項目： 新体カテスト、いきいき運動部活動、あまっ子ジャンプ事業〕

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

(1) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る

- 一人ひとりの児童等の内面理解に努め、「どのような行動が適切か、自分で考え、決定し実行する」自己指導能力を育成する。
- 不登校等の未然防止を含め、児童等の社会性を培い、自立心を育成する。

〔関連項目： 携帯電話・スマートフォン等の適切な活用、教育相談の充実〕

(2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める

- 児童等が自己を深く見つめ、思いやりの心をもって進んで行動する態度を育成するとともに、「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体を通して道徳性を養い、実践力を高める。

- 「いのち」の重みと、生きることの意味を一人ひとりが考えることを通して、かけがえのない自分の存在を実感し、他者と共に生きる喜びを感じる態度を育成する。

〔関連項目：生命尊重、規範意識、体験活動、人権意識、自尊感情〕

(3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがすごしやすい学校の環境づくりに努める

- いじめの未然防止につながる活動を学校活動全体を通して推進するとともに、いじめの早期発見につなげる。
- 教育相談等も積極的に活用しながら、誰もが相談しやすい環境づくりに努める。
- 解決に向けては、特定の教員が抱え込まず組織的に対応する。

〔関連項目：ネット上のいじめ、校内いじめ対応チーム〕

(4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する

- 年間指導計画のもと、将来、社会的・職業的に自立し、社会とのつながりや社会における自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。
- 多様な考えや立場を理解し、他者と協力・協働して社会参画する姿勢を育成する。

〔関連項目：キャリアプランニング能力、キャリアノート〕

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る

- 教職員は、教員資質向上指標に基づいて、キャリアステージに応じた資質向上に取り組むとともに、自主的に学ぶ姿勢を持ち続け、個々の能力を高める。
- P D C A サイクルによる教育活動等の検証を通じて、学校の組織力を高め、教育水準の向上を図る。
- 学校業務改善や定時退勤日等の取組により、教職員の勤務時間の適正化を図り、教職員の健康の保持に努めるとともに、児童等と向き合う時間を確保し、心の通い合う教育活動を推進する。

〔関連項目：学び続ける教員、チーム学校、自主研究グループの推進、働き方改革〕

(2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する

- 家庭や地域に対し、学力向上アクションプランや学校評価の結果等の情報を積極的に発信する。
- 地域の活動等へ積極的に参加・参画することを通して、学校園と地域が連携・協働し、地域全体で児童等の成長を支えていく活動を推進する。

〔関連項目：地域学校協働本部、スクールサポーター、大学との連携〕

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る

- 適切な危険予測・危機回避能力を育成する。
- 家庭や地域、関係機関との連携を深め、登下校の通学路での安全確保及び学校園内での事故防止を図る。

〔関連項目：自転車を含めた安全教育の推進、通学路や施設の安全点検〕

(2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る

- 学校園において、児童等が自分の命を守るために、災害に対する正しい知識や技能を身に付け、適切に判断し、主体的に行動する力を育成する。
- これまでの地震等の災害を踏まえ、学校園災害対応マニュアルを見直し、学校園の危機管理能力向上を図る。

〔関連項目：あまっこ災害対応リーフレット、防災ネット、自助・共助〕

ブレイクスルー イヤー

昨年は『温かい出合いを大切に』をキャッチフレーズに、いろいろな行事を通して、また多くの周年行事の中で、地域や保護者の方々の学校園に対する「あつい思い」を感じ取ることが出来た年でした。一方、私たちの働き方を見直すとともに、資質向上や新学習指導要領への対応、さらなる学力向上を含め、多くの課題について学校園の意見も聞きながら、検討を進めてきました。

今年は、それらを実践していくことが重要であり、《ブレイクスルー イヤー》、すなわち突破や躍進の年にしたいと考えています。

現在は「たった一つの正しい答え」というものは存在せず、問題や課題は「出されるもの」ではなく、「見つけるもの」なのです。誰かがやってくれるのではなく、私がやっていくことが求められています。だからこそ、《ブレイクスルー》、突破や躍進が求められているのです。また《ブレイクスルー》には「雲間から光が射してくる」といった意味もあります。今、光が射ってきているのです。もう少しです。私たちの目の前にある課題に対して、前向きに積極的に、堂々と突破していこうではありませんか。

今年も『温かい出合いを大切に』しながら、勇気をもって《ブレイクスルー》をめざし、重点取組項目を推進していくことで、市民の期待と信頼に応えた学校園づくりに取り組んでいきたいと考えています。

平成30年2月 教育長 徳田 耕造

<参考>

「学校教育に関する重点取組」の位置付け

